



初期臨床研修医
(入職1年目)

いそやま こうすけ
磯山 昂佑

私が医師を志したきっかけは、父の存在です。幼い頃から、患者さんに信頼される父の姿を見て育ち、自然と医師を目指すようになりました。

仕事では、「この先生でよかった」と思ってもらえるよう、患者さん一人ひとりに寄り添った対応を心掛けています。一人でも多くの患者さんに信頼して治療を受けていただけるよう、知識や技術はもちろん、コミュニケーション力も磨きながら、一步ずつ成長していきたいと思っています。



初期臨床研修医
(入職1年目)

まつうら ちか
松浦 知沙

小さい頃に病院を受診した際、担当してくださった先生の優しく丁寧な診療が、医師を目指すきっかけになりました。子どもながらに「やりがいのある仕事だ」と感じ、医学の面白さや奥深さを知る中で、患者さんの人生に深く関われる医師という仕事に魅力を感じました。

今は知識不足や自分の未熟さを実感する毎日ですが、分からないことは上級医の先生方に積極的に質問し、一つひとつ学びを深めています。患者さんと接するときは、常に相手の気持ちに寄り添い、安心していただける診療を心掛けています。

座右の銘：習うより慣れろ

大切にしていること：友だちと過ごす時間

vol.
34

オクラのさっぱりサラダ

材料(2人分)

オクラ……………100g
鶏ささみ……………100g
青しそ……………5枚
みょうが……………1個
酒……………小さじ1
塩……………ひとつまみ
ポン酢……………大さじ1
オリーブ油……………小さじ1

作り方

- ① オクラはヘタを切り落とし、塩を加えた熱湯で2～3分茹でて斜め薄切りにする。青しそは千切り、みょうがは縦半分に切ってから斜め薄切りにする。
- ② 耐熱容器に鶏ささみを入れ、フォークで数ヶ所穴を開ける。酒をふってラップをし、電子レンジ(600W)で約3分加熱する。そのまま2分ほど蒸らし、粗熱が取れたら手で裂く。
- ③ ボウルにポン酢とオリーブ油を入れ、泡立て器でよく混ぜる。オクラ、鶏ささみ、青しそ、みょうがを加え、全体をさっくり和える。



栄養管理室が
発信!



管理栄養士
たなか はづき
田中 葉月

暑い日が続くと食欲が落ち、たんぱく質が不足しがちになります。そんな時におすすめなのが、鶏ささみを使った高たんぱくサラダです。ポン酢のさっぱりとした味わいで食べやすく、オリーブ油を加えることで不足しがちなエネルギーも補えます。また、オクラには食物繊維やカリウムが豊富に含まれており、腸内環境を整えたり、汗で失われやすいミネラルを補ったりする働きが期待できます。夏バテ気味の方や夏バテを予防したい方に、ぜひ食べていただきたい一品です。

編集
後記

暑い季節になると困るのが、駐車中の車内の温度です。特に直射日光が当たる場所では、短時間でも車内が驚くほど高温になるため注意が必要です。車内の熱気を和らげるには、窓を開けて熱気を逃がしたり、サンシェードを使用したり、エアコンを「外気取り入れモード」に設定したりする方法が効果的とされています。診療を終えてお車でお帰りの際は、車内の暑さによる熱中症に十分お気をつけください。



JCHO徳山中央病院広報誌「Smile」
vol.034 2026年8月10日発行

ご意見・お問い合わせは… JCHO徳山中央病院 総務企画課
TEL: 0834-28-4411 E-mail: main@tokuyama.jcho.go.jp
発行/JCHO徳山中央病院
direction&design/株式会社 しろくまワークス
photo/Photo Office MOTHER LEAF クリニック取材・編集/小野理枝

Tokuyama Central Hospital

Smile

【スマイル】

地域のみなさまと『JCHO徳山中央病院』をつなぐ
コミュニケーションマガジン

ご自由にお持ち帰り
ください

vol.034
August.2026

診療科情報 P1-2

総合病院における「精神科リエゾン」という役割

精神科 山田 典宏

Hello! 部署訪問 P3

中央館5S病棟

(泌尿器科・救急科・皮膚科)

認定・専門看護師 P4

訪問看護認定看護師 横田 静香

P5

かかりつけ医Network! かまたクリニック
よろず相談室

P6

NEWS & REPORT!・医療Pick up!・ここにもSMILE!

表紙のはなし：フレッシュスマイル! P7

初期臨床研修医 磯山 昂佑 初期臨床研修医 松浦 知沙

旬素材で健康レシピ P7

オクラのさっぱりサラダ

管理栄養士 田中 葉月

総合病院における

「精神科リエゾン」 という役割

「リエゾン (Liaison)」とは、フランス語で「橋渡し」や「連携・つながり」を意味する言葉です。医療の現場における「精神科リエゾン」とは、身体の病気を治療する診療科と、こころのケアを担う精神科をつなぎ、一人の患者さんを支える医療です。

大きな病気やけが、手術の前後、あるいは長引く入院生活の中で、人は誰でも強い不安やストレスを感じることがあります。時に眠れなくなった

り、一時的な混乱をきたしたりすることも少なくありません。また、精神疾患があることで、身体の治療を進めるうえで配慮が必要になる場合もあります。

当科では、主治医などから依頼のあった患者さんを対象に病棟へ応診する形で治療に携わります。病棟スタッフとも連携しながら、患者さんが安心して治療に向き合えるよう、こころのケアを行っています。

精神科 医師
やま だ のり ひろ
山田 典宏



こころのケアが求められる場面

Scene 01 ✓ 手術後や急性疾患に伴うせん妄

せん妄は、手術や急性疾患、急な入院による環境の変化などをきっかけに、一時的に意識や認知機能が低下する状態です。急につじつまの合わないことを話したり、場所が分からなくなったり、夜間に興奮したり、点滴を自分で抜いてしまうなどの行動がみられることがあります。一見、認知症の進行のように見えることもありますが、多くは適切な対応によって改善が期待できる一時的な症状です。

当科では、生活リズムを整えるための環境調整をはじめ、身体疾患への影響や薬剤との相互作用にも十分配慮しながら、必要に応じて薬物療法を行い、安全に、そして予定どおり身体の治療を継続できるようサポートしています。



Column 01

せん妄と認知症の見分け方

せん妄と認知症の大きな違いは、症状の現れ方です。せん妄は手術や感染症、環境の変化などをきっかけに急に起こります。一方、認知症はゆっくりと進行し、継続的なケアが必要となる病気です。

Scene

02 ✓ がん治療に伴う不安やうつ

がんの告知や後遺症を伴う疾患の発症、長期にわたる入院生活は、患者さんに大きな精神的苦痛や心理的負担をもたらします。強いストレスを背景に、気分の落ち込みや不安、不眠、食欲低下などが続くと、治療への意欲が損なわれたり、うつ病を発症したりすることもあります。当科では、患者さんの気持ちに寄り添いながら精神状態を丁寧に評価し、一人ひとりの不安や悩みに寄り添っていきます。

Column 02

認知症ケアチームとの役割分担

認知症ケアチームは、認知症のある患者さんへの専門的なケアを行う多職種チームです。一方、精神科リエゾンは認知症を含め、せん妄やがん治療に伴う不安など、身体の病気に伴う幅広いこころの問題に対応しています。

Scene

03 ✓ 認知症に伴う行動・心理症状への対応

認知症のある患者さんは、入院による環境の変化や身体の不調をきっかけに、不安や混乱が強くなることがあります。大声を出したり、治療や看護ケアを拒否したり、自分の部屋が分からなくなって歩き回るなど、行動・心理症状 (BPSD) がみられることもあります。精神科リエゾンは認知症ケアチームの一員としても活動しており、主治医や看護師など多職種と連携しながら、一人ひとりの状態に合わせたケアや必要に応じた薬物療法を行い、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりに取り組んでいます。



Scene

04 ✓ 身体とこころ、両方へのアプローチ

統合失調症や気分障害などの精神疾患がある患者さんが身体の病気を患うと、コミュニケーションの難しさや精神症状の影響から、検査や治療が円滑に進まないことがあります。当科では、主科と連携しながら精神症状の安定を図るとともに、必要に応じて薬物療法を調整しています。また、一般病棟での対応が難しい場合には、精神科病棟を併設する他院との連携や転院調整も行い、患者さんが適切な治療を受けられるよう支援しています。

Column 03

こころのサイン

こころの不調は、特別なことではありません。病気や治療への不安から、眠れない、気持ちが落ち込む、意欲がわかない…。こうしたこころの変化は、誰にでも起こり得るものです。一人で抱え込まず、医療スタッフに相談することも治療の一つです。



チーム医療で患者さんを支えます



医師、看護師、心理療法士、作業療法士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種で構成されています！

どんなお仕事していますか？

Hello! 部署訪問

no. 33

今回ご紹介するのは…

中央館5S病棟（泌尿器科・救急科・皮膚科）

中央館5S病棟は、泌尿器科・救急科・皮膚科の混合病棟です。

泌尿器科では、腎尿路系疾患に対し、内科的・外科的アプローチの両面から診断・治療を行っています。年間約700件の手術を実施しており、内視鏡手術やロボット支援手術、女性泌尿器科手術など幅広い治療に対応しています。悪性腫瘍に対しては手術療法に加え、がん薬物療法や放射線療法も実施しています。また、慢性腎不全に対する血液透析・腹膜透析・腎移植など、高度で専門的な医療も提供しています。

救急科では、敗血症や横紋筋融解症、多発外傷など重症患者さんの治療を担っています。救急科患者さんの約半数は救命救急センターやICUを経由して入院されており、緊急度・重症度の高い医療に対応しています。

皮膚科は、新棟Ⅱ期工事終了後の移転に伴い中央館5S病棟へ加わりました。熱傷や皮膚腫瘍の患者さんを中心に、手術やがん薬物療法など専門的な治療を行っています。

当病棟には、がん薬物療法看護院内認定看護師、呼吸ケア看護院内認定看護師、在宅療養・入退院支援院内認定看護師、ストーマ認定士、術後疼痛研修修了者、ICLSインストラクター、認知症看護研修修了者、認知症介護実践リーダー研修修了者など、専門的な知識と技術を持つ看護師・介護福祉士が多数在籍しています。知識や技術を共有し、安全で質の高いケアの提供に努めています。

部署DATE

・泌尿器科医師 6名	・看護師 30名
・救急科医師 5名	・介護福祉士 9名
・皮膚科医師 3名	・看護補助者 3名

また、患者さんの約56%が75歳以上を占めており、認知症や環境の変化によるせん妄症状がみられる方も少なくありません。介護福祉士を配置し、看護師・看護補助者と協働しながら、一人ひとりの状態に合わせた見守りやレクリエーションを行うなど、安全で安心して療養できる環境づくりに取り組んでいます。

さらに、医師、看護職員をはじめ、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど多職種が密に連携し、それぞれの専門性を生かして患者さんを支えています。退院後の生活も見据え、外来やケアマネジャー、訪問看護師とも情報共有を図りながら、切れ目のない支援を行っています。

私たちが大切にしているのは、患者さんやご家族の思いに寄り添うことです。病気や治療だけでなく、退院後の生活まで見据え、一人ひとりがその人らしく前向きに療養生活を送ることができるよう支援しています。患者さんの笑顔に励みに、いつでも気軽に相談していただける病棟を目指し、思いやりの心と笑顔を大切にしながら看護を提供してまいります。



教えてくださいますか？

あなたの

マストアイテム

「駆血帯」は採血に欠かせない私のマストアイテムです。毎日使うものだからこそ、自分の好きなカラーを選び、仕事のモチベーションにつなげています。ゴムチューブタイプがお気に入り、落としてもすぐ戻ってくるよう名前を書いて大切に使っています。



看護師
やますき ももか
弥益 百香

仕事で教わったことや申し送り事項などを忘れないよう、その場ですぐ書き留めるための「メモ帳」は私にとって欠かせないアイテムです。ポケットに入るサイズで、フラットに開くので書きやすいのもお気に入り。大切なページには付箋を貼り、すぐ見返せるよう工夫しています。



看護師
みうら けいじ
三浦 慧仁



訪問看護
認定看護師

よこた しずか
横田 静香

「訪問看護認定看護師」の役割について教えてください

まず、みなさんにあまり知られていない「訪問看護」についてご説明します。訪問看護は、病気や障害のある方のご自宅や施設を訪問し、医療や看護を提供するサービスです。退院後から利用を始められる方もいらっしゃいますが、近年では、外来から点滴などの医療行為の依頼や、ケアマネジャーから健康面のサポートを目的とした依頼も増えています。サービスを利用するには主治医の指示書が必要となりますので、まずは外来やケアマネジャーなど身近な方へご相談ください。

認定看護師としては、在宅療養される方やご家族を専門的な知識と技術で支えるほか、院内外の看護職者への指導や相談対応を行うなど、地域全体の看護の質の向上にも努めています。

具体的な活動内容について教えてください

私自身、認定看護師としてはまだスタートしたばかりですが、今後は地域の訪問看護ステーションなどからの相談支援にも力を入れていきたいと考えています。特定行為研修も修了しているため、褥瘡のデブ

リードメントや胃ろう交換、脱水時の補液などに関することや、医療行為への対応に悩む事例などの相談にも対応していく予定です。

また、地域包括ケアシステムの推進も訪問看護認定看護師の重要な役割です。地域では、さまざまな専門職がそれぞれの立場から在宅療養される方を支えています。そのため、多職種が同じ方向を向いて支援できるよう、情報共有や連携を図ることが欠かせません。訪問看護師として、専門職同士をつなぐ役割を担いながら、地域全体の支援体制の充実に貢献していきたいと考えています。

大切にしていることは何ですか？

私が最も大切にしているのは、「その人の思いを知ること」です。訪問看護では、ご自宅で最期まで過ごしたいという希望を支える場面も少なくありません。そのため、「なぜ自宅で過ごしたいのか」「どのような時なら入院を考えるのか」「病気や治療をどのように受け止めているのか」など、一人ひとりの思いを丁寧に伺うよう心掛けています。ご本人やご家族と一緒に思いを共有しながら、その方らしい療養生活を支えるために必要な支援と一緒に考えていくことを大切にしています。

徳山中央病院では、現在21名の認定・専門看護師が活動しています。今回は、訪問看護を専門とする認定看護師をご紹介します。

認定・専門看護師

My Favorite!

先日、淡路島の国営明石海峡公園を訪れました。色とりどりの植物に囲まれ、自然の美しさに癒やされながら、心も体もリフレッシュすることができました。



認定・専門看護師って？

認定・専門看護師は、それぞれの専門分野で高度な知識や技術を持つ看護のスペシャリストです。認定看護師は、特定の看護分野で熟練した知識と技術を持ち、水準の高い看護を実践する看護師であり、専門看護師は大学院修士課程を修了し、より複雑で高度な看護課題に対して、実践・相談・調整・教育・研究などを行う看護師です。

【かかりつけ医 Network!】

今回ご紹介するクリニックは…

かまたクリニック [周南市]



院長 かまた きよはる
鎌田 清治 先生

診療科目／泌尿器科 腎臓内科

山口県周南市宮の前2丁目7-7

TEL:0834-61-0099

休診日：日曜・祝日、木曜・土曜の午後

受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:30~12:30	●	●	●	●	●	●	-
14:00~17:30	●	●	●	-	●	-	-

院長's PROFILE

日本透析医学会透析専門医、日本専門医機構泌尿器科専門医。1988年3月山口大学医学部卒業。山口大学医学部附属病院、周東総合病院、下関市立中央病院、徳山中央病院、光市立病院、山口労災病院泌尿器科勤務を経て、2000年1月18日に「かまたクリニック」を開院。趣味は釣り、野球観戦等。

最近トイレが近くなった、排尿に時間がかかる、思わず漏れてしまうことがある…。こうしたデリケートなお悩みに対応してくれるのが、旧新南陽地区にある「かまたクリニック」です。院長の鎌田清治先生は、基幹病院での豊富な臨床経験を生かして、地域に根ざした診療を行っています。

「当クリニックでは、尿路系や腎臓、男性生殖器の疾患の診断・治療をはじめ、慢性腎不全の方のための透析治療を行っています。また、近隣の基幹病院と密に連携をとりながら、必要に応じて高度な検査や手術、入院治療など、切れ目のない医療を提供しています」

恥ずかしさから受診をためらう方も少なくないかもしれませんが、実は泌尿器科疾患の多くは、問診や検査で診断がつくため、初診で陰部の視診や触診を行うことはほとんどありません。

「まずは専門医に相談して原因を探ることが治療の第一歩です。特に、血尿や排尿痛、尿が出にくいなどの症状や、健康診断で尿タンパクや尿潜血を指摘された場合は、早めに受診されることをおすすめします。また、前立腺がんは早期発見・早期治療を行えば、完治する可能性が非常に高い病気です。50歳を過ぎ

たら年に1度の定期検診を必ず受けるようにしましょう」

頻尿の原因として多いのが、前立腺肥大症や過活動膀胱です。前立腺肥大症は50代以上の男性のおよそ5人に1人がかかる病気です。加齢によって前立腺が大きくなり、尿道を圧迫することで、頻尿や残尿感、尿が出にくいなどの症状を引き起こします。過活動膀胱とは、膀胱が過敏になり、尿が十分に溜まっていない状態でも、膀胱が勝手に収縮してしまう病気です。

「いずれの病気も軽度であれば薬による治療が可能です。また、辛い食べ物、前立腺肥大症の症状を悪化させる恐れがあるため、食べ過ぎには注意が必要です」

最近、気分が沈みがち、眠れない、疲れやすい…。そんなお悩みはありませんか？ 近年、女性だけでなく男性も更年期障害になることがわかっています。

「症状が出ても、そもそも何科を受診すればいいのかわからないという方もいらっしゃるかもしれません。女性は婦人科、男性は泌尿器科を受診するのが一般的です。早めの相談が日常生活の質を保つことにつながります。一人で悩まず、お気軽にご相談ください」



地域医療のキモンにお答えします！

よろず相談室

問 地域包括支援センターってどんなところ？

答 高齢者の健康や生活に関する相談を受け付けている、地域に密着した総合相談窓口です。住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、必要なサービスや支援につないでいます。全国の市区町村に設置されており、お住まいの地域ごとに担当する地域包括支援センターがあります。日常生活の心配ごとをはじめ、病気や介護、金銭的な問題など、さまざまな相談に対応しています。

地域のみなさまと病院をつなぐ窓口です

患者支援センター

<地域連携室・医療相談室>

退院・転院支援や、活用できる社会制度の情報提供、患者さんやご家族のご心配事など、誰に相談していいかわからなくて困っていませんか？ どんなことでもかまいません。患者支援センターまでお越し下さい。(総合受付発券機での受付が必要です。)

お電話でもOK! (0834) 28-4411 (代表)



病棟でのWi-Fi利用導入 看護の日イベントを開催しました

患者さんへのサービス向上と利便性の向上を目的に、すべての病棟でWi-Fi接続サービスを導入しました。お手持ちのスマートフォンやタブレット、パソコンなど、Wi-Fi機能を備えた端末でインターネットをご利用いただけます。設定情報等については、各病棟の掲示板をご確認ください。



5月26日に「看護の日」イベントを開催しました。

当日は、看護師による血圧測定などの健康チェックをはじめ、健康状態の確認や生活習慣の見直しについてのアドバイスを行いました。また、理学療法士による自宅でできる運動やセルフケア体操の紹介、管理栄養士など専門職による医療相談も実施しました。

多くの皆さまにご参加いただき、健康について考える有意義な機会となりました。来年度も開催を予定しておりますので、ぜひご参加ください。皆さまの健康づくりに役立つプログラムをご用意してお待ちしております。



ここにも Smile! 第9回 笑顔を支える仕事、ここにもあります！

JOBサポートチームのみなさん

当院では、障がいのあるスタッフが医療現場の一員として日々の業務に取り組んでいます。多くのスタッフは「JOBサポートチーム」に所属し、朝食配膳車の運搬や食器の下膳・洗浄、患者さんの誘導、メッセージ業務、環境整備など、医療スタッフが本来の業務を取り組みやすい環境づくりの一助となっています。

当院では障がいのあるスタッフを随時募集しています。安心して働ける職場づくりに努めていますので、JOBサポートチームの取り組みに関心をお持ちの方は、お問い合わせください。



入院前からはじまるサポート

患者支援センター 入院支援室

入院支援室では、予定入院される患者さんやご家族が安心して入院生活を迎えられるよう、事前オリエンテーションを行っています。入院に必要な書類や持ち物、治療・検査の内容、入院中の生活についてご説明するとともに、安全に治療を受けていただくため、生活状況や既往歴、アレルギー歴、ご希望などを伺います。

伺った情報は、病棟看護師や薬剤師をはじめとする多職種と入院前から共有し、安全な治療と継続的な支援につなげています。



新しいリハビリ室で、より充実したリハビリを提供します



リハビリテーション部は、理学療法士24名、作業療法士15名、言語聴覚士2名の計41名が在籍し、365日体制でリハビリテーションを提供しています。

本年3月、リハビリ室は中央館2階へ移転し、病院の中央に位置することで病棟へのアクセスが向上しました。

これにより、患者さんの状態に応じて必要な時に必要な場所でリハビリを提供できる環境が整いました。

新しいリハビリ室には、段差や傾斜を活用した屋外歩行練習ができる庭園や、十分な距離を確保した歩行練習用の廊下を整備しています。また、浴室や畳を備えた機能訓練室では、入浴や和室での動作など、退院後の生活を見据えた実践的な訓練を行っています。さらに、心臓リハビリテーション室と言語聴覚室を集約し、より効率的にリハビリを提供できる環境を整えました。

当院では急性期病院として、発症・受傷・手術後の早期からリハビリを開始し、早期離床や身体機能の維持・改善、廃用症候群の予防に取り組んでいます。多様な診療科のニーズに応えるため、スタッフ一人ひとりが資格取得や研修を通じて専門性の向上に努めています。

365日切れ目なくリハビリを提供することが、患者さんの早期回復につながると考えられており、当院でもスタッフ一人ひとりが早期からのリハビリに取り組んでいます。

今後も、一人ひとりの状態や退院後の生活を見据えながら、質の高いリハビリを提供するとともに、地域の皆さまから信頼され、必要とされるリハビリテーション部を目指してまいります。

知っておきたい医療情報をお届け! 医療 Pick up! ビックアップ!

